

# 私の授業～うまくいったこと、いかなかったこと

所属	経済学部国際経営学科	氏名	岩尾俊兵
テーマ	「何かを作って何かに気づく経営学」を目指して		
<p>私は、今年度から明治学院大学経済学部にて教鞭をとりはじめました。</p> <p>そのため、ここで述べることは、すでに実施している内容とこれから実施したい内容とが混在しておりますことをあらかじめ言い訳させていただきます。</p> <p>さて、今年から始まったコーポレート・ストラテジー、ケーススタディ、外国書講読、演習のそれぞれの授業において、私は、学生が自ら問題を発見・解決する力を身に着けられるような体験型・参加型学習(アクティブ・ラーニング)の実践を行いたいと考え、授業を組み立てて参りました。私の研究はシミュレーション等も用いる若干とつきにくいものですが、こうした工夫によって、たとえ初見の印象では親しみにくいシミュレーションを用いた内容の授業であっても、体験と参加を重視した授業を行うことで、学生の理解を促進できるのではないかと考えております。</p> <p>講義では数学への理解度、得意科目などの背景が異なる学生に対して、応用数学の一分野であるグラフ理論を使ったスモールワールドネットワーク説やシミュレーションを用いた予測について授業を行う必要もあります。こうした授業内容に受講者の興味を引きつけるため、①シミュレーション結果を動画で表現し直観的な理解を促進する、②全員に対する問いかけ(AかBか自らが当てはまる方に挙手する)を挿入する、③3択程度のクイズを細かく挿入し、1回の講義内で全員に一度は発言してもらう、④学んだことを日常生活に適用した場合にどうなるかのワーキングをってもらう、など参加を重視した授業を行っています。</p> <p>また、学期中に4回、各講義で登場した用語確認と計算演習の小テストを作成・実施しました。4回のテスト実施後には、約200人の受講者一人一人に採点結果を分析したデータを配付し、個々人にどの分野の理解が弱いのかを把握してもらい、適宜質問に回答することで内容理解につなげてもらうなどの工夫も随時おこなっています。</p> <p>以上のように、私は、直観的な理解と参加型学習を重視した教育を実践したいと考えています。そして、座学により経営分析の手法を身に着けてもらった上で、講義では、学生とのディスカッションを行う、学生が自分でフローチャート等を作成して発表してもらう機会をつくる、グループワークを行うなど学生間の協働も推進していきたいと考えています。さらに、学生がグループで企業を訪問して提案を行う場を設ける等して、実践的思考力を身につけた人材の育成に貢献したいと考えています。</p> <p>これに関して、今年は中小企業懸賞論文への応募、日銀グランプリ参加などから学生に選んでもらったイベントに取り組んだり、企業に対して提案をおこなったりしています。</p> <p>まだまだこれから、より楽しく、より知的な好奇心が満たされる、そんな授業を模索していきます。</p>			